

令和6年度第2回七尾市戦略的復興プラン等推進委員会 議事録

日 時	令和6年11月7日（木）午前10時05分～午前11時40分
場 所	七尾市役所 2階 201会議室
出席者	【委員】出席13名（欠席2名） 【七尾市】事務局及び担当部長
委員会における議事内容（質疑応答・意見等）	
委員長	<p>1 開会</p> <p style="padding-left: 2em;">委員長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 2em;">（1）七尾市戦略的復興プラン（案）について</p> <p style="padding-left: 2em;">（2）今後のスケジュールについて</p> <p>七尾市戦略的復興プラン（案）について事務局から説明を願う。</p>
事務局	<p>（資料「七尾市戦略的復興プラン（案）」により説明）</p> <p style="text-align: center;">－質疑・意見－</p>
委員長	委員全員の意見を聞く形をとるので、多田委員から順番にお願いします。
委員	和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会の代表をさせていただいている。
事務局	<p>案については大事なことは盛り込まれていると思うが、和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会と市の関係性について、支援や誘致、助成だけでなく、具体的にどのように接点を作っていくのか。</p> <p>このプランはあくまでも指針であり、具体的な予算化できるようなものがほとんど、今のところはない。ご指摘いただいた関わり方については、必要に応じて、その都度、接点を作っていく。</p>
委員	<p>いろんな取り組みが網羅されていると感じるが、自分にもいろんな分野の意見をもっているが、金融機関の立場で仕事をしているので、事業者再建などの分野に絞って集中して行っていただきたい。プランを策定するだけで終わりの形にはして欲しくない。</p>

委員	<p>ハード・ソフト両面で災害に強いまちづくりについて、被災直後、能登病院が高台ということもあり、多くの避難者で駐車場が一杯になった。救急車などで受診された被災者が帰宅や避難所にいけず、院内であふれたので、避難場所へ誘導する仕組みを考えてほしい。</p> <p>次にまちの持続を支える次代を担う人づくりについて、女性の立場からの意見として、保育料を1人目から無償化にすればどうか。また、保育士確保による待機児童ゼロ維持という目標は良いと思うが、若い世代にとってありがたさを感じない目標だと思う。若い世代がわかりやすい目標に設定すべきではないか。</p>
委員長	返答ができる範囲で担当部長からお願いしたい。
担当部長	保育の1人目からの無償化については、財源的な問題も出てくるが、出生数を上げていくうえでそういった取り組みができないか検討してまいりたい。
担当部長	まずは当初の避難状況や避難所を検証し、運営の見直しを行ったうえで、地域の皆さんに周知を図ってまいりたい。
担当部長	当日は多くの方が能登病院に避難された。当院は三次救急ということで救急搬送ができなくなっていく必要がある。11月1日に避難訓練を実施した。委員ご指摘の誘導體制についてもしっかり考えていきたい。
委員	<p>復興プラン策定後の検証をどうするのが見えない。情報をしっかりキャッチして市民や委員に分かるようにやっていただきたい。</p> <p>次にK P Iで和倉温泉旅館の加盟数とあるが、和倉以外の中小事業者のK P Iも必要ではないか。また、農業の水田面積、水産の大型定置網の数値があるが、畑作や牡蠣業などもあり、K P Iは不足していないか。</p> <p>最後に人口の見通しについて、震災前のデータで作成しているのであれば、まったく意味がないのではないか。</p>
委員長	このK P Iの質問は産業部長から回答をお願いしたい。
担当部長	委員の皆さんがご覧いただいているこのプランだけでは、こういった方向でまちが復興されていくのかを感じるのが難しいのではないかと思う。産業分野ではこの後、関係者の方ともっと具体的な復興について、こういった産業を振興していくのかというお話をさせていただきたいと思う。

委員	K P I の和倉温泉協同組合の加盟数っていうのが具体的すぎではないか。市内には他にいろいろな組合がある。他の組合から指摘された時、事務局がどうやって答えるのか。
事務局	K P I は4つの柱の達成する上での目標値であり、全部の項目を挙げられればベストかもしれないが、その中で目安となるわかりやすいものを設定させていただいた。和倉温泉だけを最優先しているという意味ではない。
委員	私は理解できるが、他の方が理解できるのか疑問を感じる。
委員	和倉温泉の話が出たので確認したい。和倉温泉の加盟旅館数のK P I は、脱退や新たに加入する場合があると思うが、トータルで21件の加盟旅館数が変わらないという目標で間違いないか。
事務局	おっしゃるとおりではあるが、現状としては今加入している21事業者を維持していくことを目標としている。
委員長	そうするとK P I については、モニタリングを毎年行い、計画を立て、それを統括する部署や企画振興部の方で進捗状況を管理するということが良いか。
事務局	今後、この委員会において修正したプランを委員の皆さん諮っていただくこととなる。
委員	まずは、K P I の中で、転出超過数のプラスマイナスゼロは非常に難しいのではないかと思うが、どの政策がここに当たるのかを教えてほしい。
	次に、被災した住宅であっても、景観や古い町並みを守るっていくことも重要ではないか。壊さず、修繕し、活用することも施策として考えてほしい。
担当部長	転出については、震災だけでなく進学など様々な理由があり、現在転出超過数800人をゼロにするのかなり高いハードルだと思うが、プランに掲げる施策を総合的に取り組んでいく。まずは、七尾に住んでいる方が幸せになっていただき、その後に外から呼び込む施策を講じていきたい。
委員長	修繕が不可能と判断し、公費解体という形で全壊扱いする形でしているかと思うが、この解体の状況について担当部長から回答をお願いしたい。
担当部長	解体の現状について、お話させていただく。今の状況は、解体又は修繕される方の割合は、半分程度である。半壊以上の判定を受けた世帯については、修繕か解体すべきかをご自身で判断された上で、解体申請の窓口に来られてお

	<p>り、その方に対して、窓口で解体を止めませんかということとは言えない。その他の世帯については、住み続けるかどうかを迷っている方が多い。本当にその方がどうしたいのかということや支援が足りているのか足りてないのかということらを総合窓口において、対応しているところである。委員からご意見があった考え方をやってやられている方もおられるが、まだ全体像見えてないかなということなので今後のその解体が、相当数進んできた後のまちづくりの中でそういったところもまた話が出されるべきなのかなというふうに思っている。</p>
委員	<p>21ページの気候変動の部分に関して、私が前回コメントさせていただいたところを踏まえ追加していただいているが、奥能登での豪雨災害やヨーロッパでの記録的な洪水が発生しているので、その気候変動を踏まえた、災害対策として、防災に災害に強いまちづくりというところで意識していただきたい。学校でハザードマップの見方や津波への対応など防災教育を追加で記載をお願いしたい。18ページのところで公共交通の充実とあるが、4本の柱の「ヒト・モノ・カネの流れの回復と創出」に入れるか、1本目の柱を「ハード・ソフト両面で災害に強く暮らしやすいまちづくり」に変更してはどうか。女性の視点からでは、企業における女性のライフワークバランスの推進というのがあるが、子育て世帯のライフワークバランスの推進を記載した方がよいのではないか。</p>
委員長	<p>この質問に関しては、検討事項ということで次回の委員会で整理することをお願いしたい。</p>
委員	<p>今、移住定住の受け入れというのは現実的ではないと思うので、現在、七尾市に住んでいる方、特に若者子育て世帯の市外への転出を防ぎ、七尾市にとどまってもらえるような環境整備が大事だと思う。被災前に戻すのではなく、ハード・ソフト面でも震災後強化され、災害に強いまちを目指して他の地域以上に子どもたちが安心して住みやすい七尾市を作っていくために、現在小学校や保育園に続く道路や子どもたちが使う歩道の応急処置だけでなく、早期復旧をお願いしたい。子育て世代は子供と行く遊び場や歩く場所の状況にアンテナ張って敏感なので、いいことも悪いこともすぐに耳に入り、目が行く。室外室内の遊び場も含め、子供が関わることは後回しせずに、しっかり計画的に整備し</p>

委員長	<p>ていただきたい。このようなことが今後の子育て世代の移住定住につながって、また保育園留学デュアルスクールの促進につながっていくと思う。</p> <p>被災した小学校や中学校も当時のままである。完全復旧はしなくても、せめて入り口の見えるところだけでも早急な修繕ができないか。担当部長の考えをお聞かせいただきたい。</p>
担当部長	<p>学校施設の復旧については、現時点で設計が上がったものから順次、工事を発注しているところである。例えば、能登島小学校については、体育館が被災しており、グラウンドも使えない状況で、運動できないような状況であることから、学習の場となるような場所を重点的に先行して復旧をしているところである。残りの部分については実質、今年度中には実施設計を上げて、来年度から順次復旧していくことになる。甚大な被害がある田鶴浜小学校については、校舎の建て替えが必要で、今年度中に仮設校舎を建設して、二年ほど仮設校舎で学習した後に新しい学校に入ることとなる。</p>
委員長	<p>これは多額の予算が必要である。いまだに段差がある、駐車場も使えない学校がたくさんある。その辺をできるだけ早く直して欲しいと市民の方からも声が上がっているので、復旧の方をよろしく願いしたい。</p>
委員	<p>この会議に初めて参加するが、この推進委員会にアドバイザーや統括するコンサル会社、大学などの方は参加されているのか。</p>
委員長	<p>その方々からアドバイスを受けながら進めているという認識である。</p>
委員	<p>子どもも大事だが、この震災で福祉や障害などの施設へのケアというのが薄かったという印象がある。老人ホームや障害者施設で働いているエッセンシャルワーカーなどの手当やケアも考えてほしい。避難所に関して、能登島の学習センターの体育館は天井がやっぱり外れて使えなかった。体育館の天井は外れやすくなっており、地震に弱いと思う。能登島では温泉施設である島の湯が自主避難所として有効だった。スポーツセンターの建設だけでなく、入浴施設を避難所に強化するようなことも考えるべきではないか。地域の集会施設も防災機能を備えたものに整備すべきではないか。また、観光分野からの視点として、能登島を修学旅行先として選んでくれるのは田んぼや黒瓦、海があり、景観で選ばれているので、景観を保全することを考えてもらいたい。あと KPI に関し</p>

	<p>て、具体的なアドバイスはできないが、市民が復興を身近に感じられるわかりやすいK P Iの設定が必要ではないか。外部の方にアドバイスを求めて作るべきだと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>今の意見は、市民が復興を感じるような指数が一つあれば良いとの意見であったと思う。各部長にはまた参考にしていただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>まずはK P Iについて設定されているが、K G Iは何を設定されてこのK P Iになったのか。最終的なK P Iの目標値だけではなく、計画的に一年目、二年目などの年度ごとの目標値を定めて、達成できなければ、年度ごとに計画を見直すことも必要ではないか。復興プランとS D G s 未来都市計画の事業とのすり合わせや相関関係を検討してもらいたい。</p>
<p>担当部長</p>	<p>K P Iの設定は非常に難しいものがあり、今回の場合は令和6年1月1日の震災からの復興プランであることから、スタートラインは1月1日であるため、リアルタイムで現状を把握できるような数値が必要である。統計の数値を使うとなると、その数字は2年前の数値になり、把握に必要な震災後のリアルな数値がなかなかないということで、K P Iの設定に非常に苦労しているところである。今回の復興プランについては、とにかくアクションありき、復旧・復興を前に進めるための物差しとして図るためにはK P Iが必要である。こういった形で稚拙なK P Iであるが、このような形でのそのK P Iをお示しさせていただいたというところでご理解いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>七尾商工会議所の方から預かっている意見を述べさせていただく。七尾商工会議所が進めている能登未来会議で復興指針を11月中に策定予定であるが、これを市の復興プランに盛り込むことは可能であるか。45ページの能登全体の復興を牽引する取り組みの推進、能登の経済復興に向けて国や県と連携しながらしっかりと取り組むと書いてあるのを、具体的にどう取り組んでいくのか。市長と当会の正副会頭が12月4日に意見交換会を行う予定なのでその場で回答いただければと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>この質問には、後日ある市長との懇談の場で回答いただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>すでに皆さんも言われたことと思うので、自分が思っていないことも、いろいろな意見が出されたと思う。私が気になっていたのは、委員が言われた通り、</p>

	<p>K P I の選定についてである。特に農業分野で見ても、水田面積を増やすと記載があったが、水田だけじゃない農業もある。先ほどの説明で十分納得はできた。あとはこの戦略的復興プランが案ではなくなり、いつ進めていけるのかということが気になっているが、今後のスケジュールについて、この後の議事の2で説明いただけるので、そこでお聞きする。</p>
委員	<p>大変素晴らしい復興プランだと思う。あとは具体的に、ここに記載された事業をどうやっていくのか、これから大変だろうと感じる。私は5月に東北の方に行くことがあり、東北の復旧復興には13年の歳月を要して、ようやく復興したという話を聞いてきた。やはり復興には相当時間がかかると感じた。ただ一番の問題は人口である。46ページの人口の見通しでは、13年後の2037年は約3万5千人。今から3万5千人ぐらいの七尾市を想定して、いろいろな復旧・復興に取り組んでいくべきだと思う。</p>
委員長	<p>これで全委員が意見を述べたと思うが、オブザーバーから意見があるとのことなので、お願いしたい。</p>
オブザーバー	<p>先ほど委員の方から、ご質問のあった件についてお話をさせていただく。このプラン策定には、国土交通省から発注させていただいた業務の中で支援させていただいている。このプランについては、自治体が策定するものなので、あまり強い提案をできなかったというのは反省点である。こちら側からのご提案をすべて七尾市が受け入れていただけた訳ではない。そこは難しいところもあったかと思う。委員の皆さんは、今の話をお聞きになり、委員の皆さんも私もこのプランを見ながらモヤモヤ感があるのではないかと感じたところを四点お話をさせていただく。まず、策定方針として具体的などころまで強く記載できないのは仕方ないと思うが、45ページに記載している推進体制が薄いと感じた。委員から意見のあった接点についても、きちんとこう考えているとわかるようになれば良いのではないかと感じた。他の自治体の計画をみても、推進体制の確立は記載されている。他の自治体にも私のような立場の方が復興計画策定のフォローに入っていることから、復興計画を見させていただく機会がある。見比べると、どの地域にどういうことを注力していくのかという部分が本市のプランには足りないと感じた。和倉温泉だけは特別視さ</p>

	<p>れているが、中心市街地や他の地域はみんな同じ考え方に疑問を感じた。この地域にはこのような産業があるから、こういうところを注力していこうというところが不明確だと感じたのが2点目である。3点目はK P Iについてである。委員の皆さんからいろいろ意見が出たが、その通りだと思う。事務局の説明で目安という回答があったが、そう考えるぐらいであれば、小項目に一つずつK P Iを策定すればどうかと思う。目標値の年次もバラバラなので、短期中期の考え方を含め、見直しすべきではないかと思う。4点目はこのプランはどれだけ柔軟性を持ったプランなのかというところである。私は国の人間なので、実は国の方でも、この復興施策への支援について、今、議論をしているところである。この復興プランにどれだけ具体的なことが記載できるのか、どこに注力していくのかとか、その意思表示がきちんとされているところであれば、充実した支援を受けることが難しくなるのではないかと思う。こういった点を含め、柔軟性を少し高めていただき、何回も見直せるような体制にしていっていただきたい。以上である。</p>
担当部長	<p>いただいた4点のご意見について、3点目まではご意見ということで整理させていただく。4点目の柔軟性については、先ほども申し上げたとおり、委員の皆様へに策定いただいた戦略的復興プランは、年内に策定のスケジュールであるが、今後、七尾商工会議所の未来会議や和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会の方で策定されるプラン等との整合性なり、取り込み等を行いながら、変更や見直しを含め、進めていきたいと考えている。今後も委員の皆さんのご意見もいただきながら、毎年、検証と見直しというのを続けていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>その他に質問がないようであれば、事務局から今後のスケジュールについて説明を願う。</p>
事務局	<p>(口頭で今後のスケジュールについて説明)</p>
委員長	<p>本日の審議会で多くの意見や要望が出されたので、事務局の方でこれらの意見を踏まえて、整理していただきたい。</p>

他に質問がないようなので、本日の会議はこれにて終了とする。会議に進行にご協力いただき感謝する。

3. 閉会

—終了—